

【簡易版】新陳代謝促進による供給安定性向上を目的としたガイドライン

自動車メーカー		自動車部品メーカー	
ガイドライン	努力目標	ガイドライン	努力目標
<p>①【部品新規開発の場合】 各自動車メーカーは、電子電装部品の新規開発時において、自動車部品メーカーにて供給性を確保した製品選定ができるように、RFQに必要な情報を明示する</p> <p>※なお、10年を超えるような長期車両、かつモデルチェンジなどのイベントの計画がない車両の場合は定期的に供給性を確認するマイルストーンを設ける</p>	<p>下記情報例の提示に努める</p> <p>a)該当PJT(車両)の量産開始時期 b)該当PJT(車両)の企画モデルライフ c)該当PJT(車両)の企画台数</p> <p>※企画モデルライフは企画時の償却想定期間で、生産期間ではない ※企画モデルライフと生産想定期間が異なる場合は別途通知を行う</p>	<p>①【部品新規開発の場合】 RFQの情報をもとに、電子電装部品の供給性(EOLリスク、キャパシティ)を確認し、供給継続性の高い部品を選定することに努める</p>	<p>下記の主体的な活動推進に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> • 平時より使用部品の供給性を確認・管理する • リスク部品を採用せざるを得ない場合、供給リスクについて自動車メーカーと協議する
<p>②【部品流用の場合】 各自動車メーカーは、既存の電子電装部品の流用時において、当該部品の車両展開情報を可能な限り正確に、かつ迅速に自動車部品メーカーに通知する</p> <p>※なお、10年を超えるような長期車両、かつモデルチェンジなどのイベントの計画がない車両の場合は定期的に供給性を確認するマイルストーンを設ける</p> <p>※提示方法についてはRFQに限らず個社運用に沿って対応</p>	<p>下記情報例の提示に努める</p> <p>a)電子電装部品が展開される先の該当PJT(車両)の量産開始時期 b)該当PJT(車両)の企画モデルライフ c)該当PJT(車両)の企画台数</p> <p>※企画モデルライフは企画時の償却想定期間で、生産期間ではない ※企画モデルライフと生産想定期間が異なる場合は別途通知を行う</p>	<p>②【部品流用の場合】 自動車メーカーからの情報をもとに、電子電装部品の供給性(EOLリスク、キャパシティ)を確認し、問題有無を自動車メーカーに通知する</p>	
<p>③【車両生産延長の場合】 各自動車メーカーは、①、②で提示した企画モデルライフよりも長期に生産する車両において、生産延長が判明した段階で迅速に通知する</p>	<p>下記情報例の提示に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> • EOP/モデルチェンジの時期情報 (EOP/モデルチェンジが未定の場合は、その旨通知) 	<p>③【車両生産延長の場合】 自動車メーカーからの情報をもとに、電子電装部品の供給性(EOLリスク、キャパシティ)を確認し、問題有無を自動車メーカーに通知する</p>	
<p>上記①～③を踏まえ、供給継続に懸念が発生する場合において、自動車部品メーカーと自動車メーカーでそれぞれ密にコミュニケーションを取り、QCD等も考慮の上、対応については当事者間で協議を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 残置/切替とその判断に付随する議論は当事者間で協議 • QCDの判断のために自動車メーカーは台数提示に努める 	<p>上記①～③を踏まえ、供給継続に懸念が発生する場合において、自動車メーカーと密にコミュニケーションを取り、QCD等も考慮の上、サプライチェーンの維持に向けた方策について当事者間で協議を行う</p>	<p>下記の主体的な活動推進に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> • 代替品、代替品切替計画等のバックアップ策を提示する • 作り溜め選択時は自動車メーカーと合意した必要数量を確保し、量産終了までの環境変化への対策は都度自動車メーカーと協議する